

臨時学級懇談会 まとめ

【日時】 令和 7 年 9 月 22 日(月) 18:30～20:00

【参加者】 保護者、校長、教頭、学年主任、担任

1 学校からの説明

【学校長から】

○4 月からの学級の状況について

- ・4月下旬ごろから子ども同士のトラブルが増え、担任に話を聞いてほしいという子が増えてきた。
- ・相談室に訪れる子が増え、5月中旬から相談室担当で学習相談支援員が授業中の支援に教室に入るようになった。
- ・5月下旬、運動会に向けて、大縄の練習などは学級でそろって取り組み、楽しむ姿が見られた。
- ・よい姿を見られた際にビー玉をため、お楽しみ会としてパンケーキ作り等に取り組み、協力して行う姿が見られた。
- ・夏休みに、担任、学年主任、教頭、校長、町の指導主事と学級経営について相談し、2 学期を迎えた。
- ・2学期 2 週目に、担任より体調不良の訴えがあり、教頭、町の指導主事が関わり、担任を支えながら進めてきた。

○現在取り組んでいる学校としての対応

- ・学習相談支援員を1～5時間目前半(給食。清掃含む)に配置。
- ・担任の教材研究の時間の確保し、授業の充実をはかるため、図書の時間、体育、図工等他の職員が受け持つ場合がある。
- ・児童のトラブルに関して、担任とともに学年主任、生徒指導係も関わり、家庭への連絡をする場合がある。
- ・学級会を開き、よりよいクラスにするためのアンケートを行い、それをもとに目標を児童と担任で共有し、「自分に何ができるか」学校と家庭が一緒になって子どもたちの成長を見守っていきたい。

【担任から】

○学級でのアンケートの結果から、今後の学級への願い

学級目標である「強・優・笑」の中で、子どもたちが最も大切にしていきたいものとして「笑」が挙げられた。そのために大事にしたいことをキーワードとして挙げてみると、「暴力(をしない)」「暴言(を言わない)」「笑顔」が多く挙げられている。「笑顔が絶えないクラスにしたい」という思いを児童と担任で共有した。一人一人が何ができるかを考えながら、子どもたちと一緒に学級づくりに取り組んでいきたい。

【学年主任から】

○学年としての取組

- ・学年で道徳の交換授業を行ってきた。他の担任が行っている授業をお互いに見合う機会とした。
- ・児童のトラブル対して、学年職員で相談に乗り、必要に応じて学年集会を行う。
- ・授業が充実したものとなるよう、Google クラウド等を使った学習内容の学年内での共有。

2 保護者からの質問意見から

【学級の現状とそれに伴う影響】

○学校の様子をオブラートに包まず、伝えてほしい

○具体的にどのようなことが起きているのかを共通理解しておく必要がある。

↓(すべての児童ではないが)

- ・授業中の立ち歩き ・授業中に必要外の音や声を出す ・友達に対しての暴言や暴力
- ・ベランダから物を落とす ・注意した教師に対しての暴言 等

↓(こうした内容から次のような影響が出ている)

- ・嫌なことをされている児童の「学校へ行きたくない」という訴え
- ・こうした学級の現状を見ている児童の不安や不満
- ・問題行動に対しての教師の叱責(特に大きな声を出す、全体に対しての叱責等)による児童の不安
- ・家で学校の話をしたがらず、明るい話題が出てこない。

【その他 出された意見】

- 子どもの学校での姿家での姿は違うので、子どもの話だけでは正しいことが分からない。トラブルがあった際は電話等で連絡してほしい。
- すべてを学校の責任とするのではなく家庭でのしつけも重要。
- まじめに取り組んでいる児童にもっと配慮してほしい。
- 学校での様子を参観することはできるか。
- 担任が体調不良のため、複数の職員が入ることになり児童が不安定になっているのではないか。授業に入る職員の指導の方向性を統一してほしい。
- 暴力等に対してやられ損にならないようにしてほしい。
- 現状を知らなかったので、今回多くの様子を聞き、胸が痛い。

3 まとめ

○今回の懇談を受けて確認した内容

- ・トラブルなどがあった際には、関わる児童から事情をよく聞き、詳しい状況を具体的に家庭に伝える。場合によっては複数の職員が関わり、家庭連絡も担任以外の職員が行う場合もある。
- ・家庭でも子どもたちの話をよく聞いてもらい、学校との共有が必要な場合は連絡をしてもらう。
本人ががんばっていることや良かった点を積極的に認め、ほめてもらう。
- ・学校での様子の参観は、基本的にいつ来ていただいても構わない。事務室に声をかけて、教室へ来てもらう。気になった点については担任をはじめ職員に伝えてもらう。